

島本町立第二中学校学校協議会（平成22年度第一回）要点録

(日 時) 平成22年5月27日(木) 午後6時30分～午後8時30分

(場 所) 島本町立第二中学校校長室

(出席者) 【委員】 杉立会長、清水委員、濱口委員、田中委員、山田委員
松井委員、竹内委員、船橋委員

【学校】 持田校長、松井教頭、(欠席：山田教諭 校外学習下見のため)

(案 件)

校長あいさつ

学校協議会では、今、学校でやっていること、これからやろうとしていることを説明していく。そして、意見をもらってこの場で協議し、学校の活動へ返していきたい。できないことは、なぜできないのかも含めて説明していく。教員とは違った目で学校を見てもらい、色々な立場からの意見がほしい。委員の任期は基本的に一年間と考える。長くとも5年までぐらいが妥当だろう。本協議会で出された意見は、最後には「学校への提言」としてまとめる。また、この会議は傍聴もできるし、会議の内容も公開される。

参加者 自己紹介

①委員の委嘱

②学校協議会設置要綱と傍聴規則等の確認

③会長の選出

委員の互選により、杉立 伸夫氏を選出。

(島本町立学校協議会連絡会への第二中学校からの代表委員を兼ねる)

④年間行事計画について

- ・第1回 5月27日(木)
- ・第2回 7月22日(木)
- ・第3回 10月20日(水)
- ・第4回 1月20日(木)
- ・第5回 3月15日(火) ☆いずれも18時30分より

⑤学校経営方針等について

(資料に沿って校長より説明) 他に、学級数の課題、新入生の状況、施設生徒・不登校生徒の状況、今春の進路状況、学校教育自己診断の数値目標、朝の読書について、部活動について等

【質疑・ご意見】

(委員) 学校支援地域本部事業とは、どういうものなのか。

(学校) 簡潔に言うと、学校が必要としているボランティアと、地域で「ボランティアをやってもよい」と思っている人をつなぐ事業。例えば、技術の授業でのこぎりを使う実習の時の授業補助や、放課後の勉強会、図書室開館の手伝いなど。本校でも技術の「栽培」の授業での補助を必要としている。一中は学習面に特化して取り組んでいる。

(委員) 一小・三小は、一中と二中に分かれるが、校区割りはどうなっているのか。

(学校) 島本町では、どこの小学校が、どこの中学校区に、というのは難しい。行く行くは、島本町全体として、一中校区・二中校区で共通の活動をやっていけないかと考えている。

(委員) ボランティアに来てもらって、教育効果はあるのか。また、学校の先生たちのこの事業に対する期待は、どの程度のものなのか。

(学校) 一口にボランティアといっても、様々でなかなか難しい。教員は、「生徒への教育的効果があるか」ということで判断するから、ボランティアにお願いすることで、大きな効果が期待できないとなかなか頼みにくい。かと言って、あまり専門的すぎる方にこられても、教員が「この段階まででよい」と思っている以上のことを、ボランティアの方が要求するようなことも考えられる。また、様々な事情のある生徒や対応の難しい生徒もいるので、コーディネーターは、単にボランティアと学校をつなぐだけでなく、学校の事情やニーズをしっかりと把握しなければならない。

また、部活動指導者は、別の事業での謝金が出るが、他は基本的には、全くのボランティアになる。そのあたりの整理も必要である。

(委員) この地域には、多くの人材があると思う。しかし、保護者ならともかく、地域の方が二中のこともよく知らずに、いきなりボランティアには来にくいと思う。地域の方にもっと学校に来てもらうような機会を設けて、学校のことを知ってもらったら、ボランティアにも来やすくなると思う。

一中校区のビラが、町全体に配られた時、「二中校区なのに、なぜ一中校区のビラが配られるんだ。」というような声が上がった。

(学校) 先ほども述べたが、将来的には中学校区別ということではなく、島本町全体の活動として取り組んでいくつもりだ。

また、図書室のボランティアは、生徒達のニーズがあり、この事業に関係なく以前から取り組まれている。他にもこれまで取り組まれている様々な、学校を支援する取り組みを、この「学校支援地域本部事業」として位置づけ、整理していけば良いのではないかと。

(委員) 文化祭や体育祭など、大きな行事は案内をもらえるが、それ以外の行事で、我々が来てもよい行事があれば教えてほしい。

(学校) 保護者案内を出しているものについては、連絡する。

その他

次回の日程 7月22日(木)